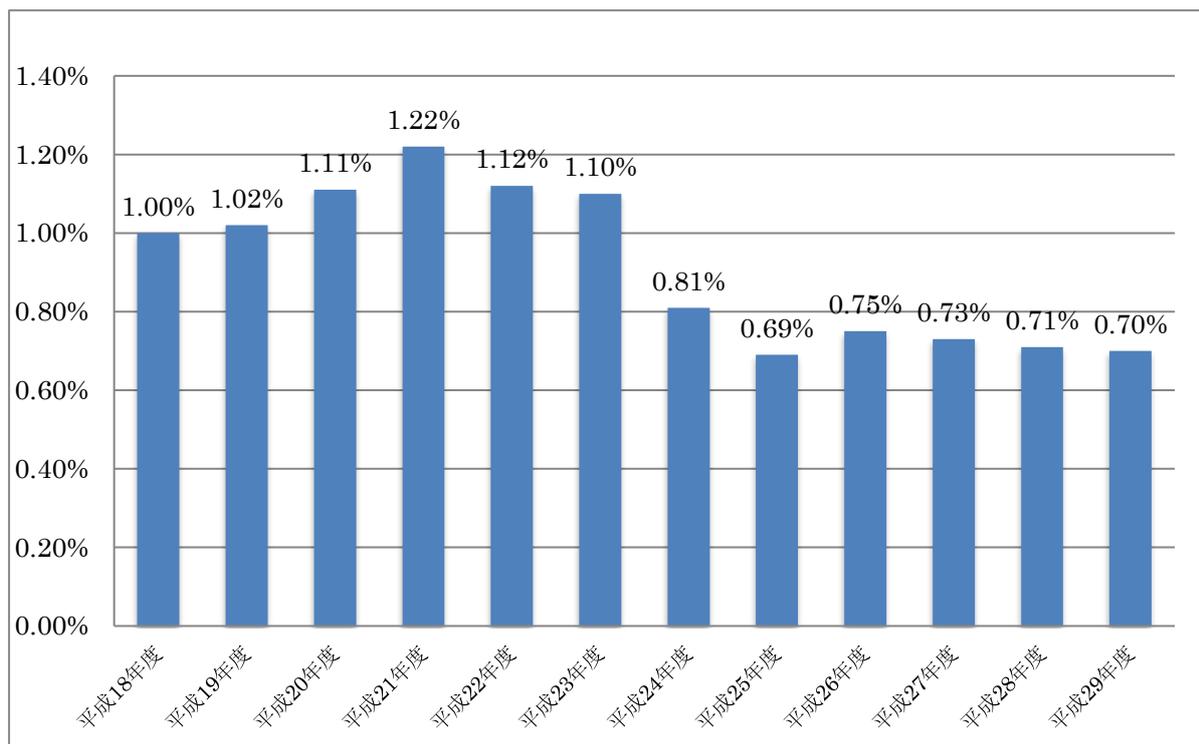


7. 褥瘡発生率



褥瘡は患者の QOL の低下を招き、在院日数の長期化や医療費の増大にもつながるため褥瘡対策は医療・看護・ケアの重要な評価の指標の一つである。

褥瘡対策実務委員会（以下、実務委員会）では、積極的な予防策、早期の治療・ケアに取り組み、重症化する患者は減少している。また、褥瘡発生の危険性が高い患者に対して、皮膚・排泄ケア認定看護師が積極的に関わることで各病棟の意識や技術の向上も測ることができるようになりつつある。その結果、平成 21 年度を境に順調に褥瘡発生率は減少してきたが、褥瘡発生率 1% を下回ることはなかった。そこで実務委員会で検討し褥瘡保有患者が多い病棟を集中的に回診し、体圧分散マットレス供給率を基に高機能エアーマットレス台数を増やした。そして病棟のニーズに合わせて実践に役立つ内容を取り入れた勉強会を開催した。その結果、平成 24 年度以降の褥瘡発生率は 1% を下回り、現在も維持できている（平成 26 年度全国平均 1.16% 日本褥瘡学会 HP より）。これは実務委員会の活動の成果とともに、看護師の褥瘡対策における質の向上によるものと考えられる。現在は褥瘡発生率の維持、更なる質の向上を目指し、小児病棟においては小児用体圧分散マットレスの導入を実施し、今後は病棟全床体圧分散マットレスの導入に向け準備を進めている。さらに勉強会の開催を年 7 回から 9 回に増やし、より内容を充実させるとともに、勉強会の中で褥瘡発生事例の検討会や褥瘡回診時の状況のフィードバックを行うなど全病棟で共有している。

今後も褥瘡発生率の維持、低下を目指すとともに質の向上に向けて積極的な褥瘡対策に取り組んでいきたい。

データ提供 看護部

褥瘡対策実務委員会